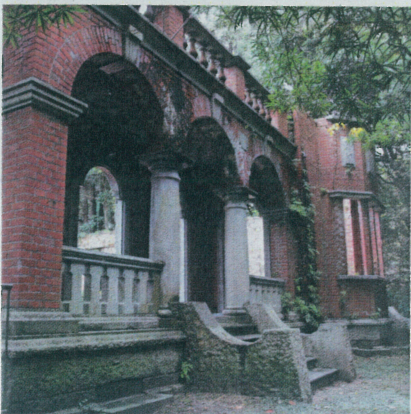
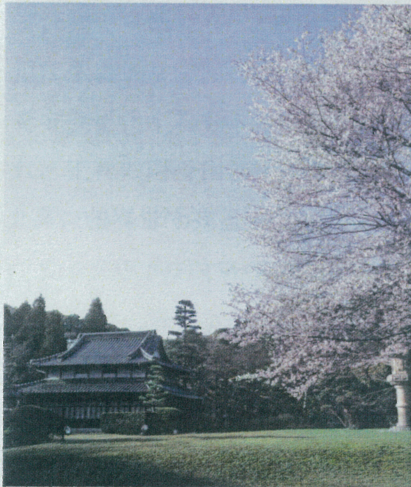


# 長府苑

景勝の地をゲストハウスに



## 【建物概要】

所在地:下関市長府黒門東町4番35号  
建築面積:360㎡(108坪)  
建物種別:木造平屋建(一部2階)  
延床面積:396㎡(119坪)  
敷地面積:15,206㎡(4,537坪)

長府苑は、第一次世界大戦時に海運業で財をなし、中国の革命家として有名な孫文に資金援助をしたことで知られる下関の豪商 田中隆氏(田隆汽船の創業者)が、その財力を注ぎ込んで長府黒門町の旧家老屋敷跡に隣接する地帯に約10万坪の広大な土地を購入し、大正14(1925)年に新築した純和風建築物です。

同氏は、この日本家屋を新築すると共に、英国人建築家アレキサンダー・ネルソン・ハンセル氏(国指定重要文化財旧J. K. ハッサム邸<神戸>の設計者)に依頼して、17世紀の英国豪農の家をモデルとした地下1階・地上2階の西洋館建設に着手しましたが、大戦後の恐慌により同社の経営が急激に悪化したため、工事は内装に取りかかる寸前で中断されました。

その後、ハンセル氏は未完の西洋館に思いを残しながら、日本を去ったといえます。

昭和18(1943)年、日本家屋と西洋館は長府船渠の手にわたり、同社は日本家屋を幹部用社宅として使用しました。同社は西洋館の工事の再開を試みましたが、その後、同社が清算会社となるに及び、完成に至ることはありませんでした。

26(1951)年、当所が日本家屋と未完成の西洋館を付近の土地とともに購入し、当時唐櫃寮(唐櫃は付近の地名)と呼ばれた日本家屋を「長府苑」と命名し、以後、ゲストハウスとして利用しています。(現在の総建坪数は約110坪、庭園等の広さは約4,500坪)

日本家屋は、当所が購入時に大改造を行っており、57(1982)～58(1983)年には、屋根葺き替えや建屋内部の大改修を行っています。

西洋館は建物の朽廃が著しく、やむなく55(1980)年に解体することとなりましたが、1階の周壁部分は原型のまま保存し、昔日の面影を永く偲ぶよすがとしています。

## 快男児の夢の跡



昭和55年当時の西洋館全景



関門海峡にのぞむ丘、市街地より紅葉が一週間早いという山裾の森の中には、かつて和洋ふたつの館が軒を接するように建っていた。純和風建築の『長府苑』と、アレキサンダー・ネルソン・ハンセル設計の『西洋館』である。ともに、ひとりの実業家<sup>でんりゅう</sup>がその財力を惜しみなく注ぎ込んだ豪邸である。田隆汽船創業者、田中隆。第1次世界大戦のさなか、2,000~5,000トンクラスの貨物船5隻を駆使して巨万の富を築くとともに、中国革命の父、孫文に莫大な資金的援助をしたことで知られる。

『長府苑』が大正末期に完成したのに対し、先行した『西洋館』は数奇な運命を辿った。17世紀イギリスの豪農の家をモデルに、ハンセルが存分に腕をふるった地下1階、地上2階、延べ床面積210坪の宏荘な館は、大正中頃、恐慌による経営悪化で、内装工事を残したまま中断、新築のまま廃屋となった。昭和26年、ふたつの館は三菱重工業(株)下関造船所の所有となり、『長府苑』はゲストハウスとして利用されてきたが、朽廃の著しい『西洋館』は、昭和55年ついに解体され、今ではゴシック風のアーチも瀟洒なテラスなど一階周壁部分を残すのみとなっている。

壇の浦の古戦場にほど近い、深い森に懐かれた快男児の夢の跡。時代を疾駆した男のスピリッツは、活発に新分野・新事業へ進出する下関造船所に受け継がれている。



巨石を立てた長府苑大手門。左右に濠をしつらえた石垣は、まさに城郭。玄関まで150m続くゆるやかな坂道は樹木のトンネルとなっている。こまやかな木の香りが快い



長府苑は、延べ床面積120坪の木造平屋建て（一部2階）。昭和26年に大改造、57・58年には大幅改修を行った。現在、三菱重工業㈱下関造船所のゲストハウスとして利用されている



5,000坪の庭園から見た長府苑

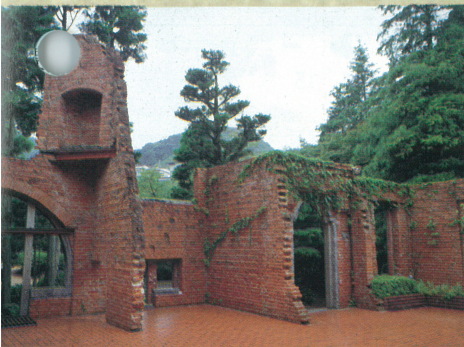


下関造船所「長府苑」



玄関次の間「長府苑」の額は、当時の丹波周夫三菱造船（三菱重工業の前身）社長の揮毫。船主など賓客の接待に使われる客間。床の間の掛け軸には「老いの目に夢のやうなり遠桜」造船業界の長老、斯波孝四郎元三菱重工業（合併前）会長の句である

今でもかなづちをはね返すほど硬いというレンガは、本場イギリスから取り寄せたもの



アレキサンダー・ネルソン・ハンセル  
明治から大正にかけて滞日、活躍した英人建築家。神戸にある国の重要文化財旧J.K.ハッサム邸、~~下関の旧英国領事館~~、関西学院チャペルなど数多くの作品を残している

